

「別府阿蘇地域の地熱・火山活動ー自然環境と生活ー」

担当教員名 杉戸信彦・竹本研史

コース概要

日程	2017年3月5日～9日
場所	別府、および阿蘇くじゅう国立公園
参加人数	24名

コースのねらい

別府～阿蘇は「豊肥火山地域」に属する世界有数の地熱・火山地域です。前半はその豊かな自然環境について巡検と講義で学びます。そして後半は「泉都」別府に焦点を絞り、歴史や文化に触れたうえで各班フィールドワーク（野外観察や聞き取りなど）を行って「課題発見」を目指します。

内容

コース前半の主題は、噴気や温泉、地熱発電、火山噴出物、火山地域ならではの景観と噴火史、人類の軌跡、地形と土地利用です。事前学習で文献を読み込み、知識とイメージを持って現場を踏むことで（明礬～鉄輪地域の半日巡検および別府～阿蘇の日帰り巡検）、机上と現地の双方向フィードバックを図っています。また、別府市内にある京都大学地球熱学研究施設を訪ね、竹村恵二教授による講義と施設内案内を通じて、研究の最前線や地熱活動の恩恵とリスクへの理解を深めます。竹村教授には別府～阿蘇日帰り巡検の午前中も現地にてご指導頂きました。



地熱と断層、水循環など、噴気や温泉のサイエンスを体感する半日巡検（別府市明礬～鉄輪エリア）。湯の花小屋や共同浴場、地獄蒸し、湯雨竹（ゆめたけ）なども観察しました。

別府～阿蘇日帰り巡検は、別府から由布、くじゅうを通過して阿蘇の大観峰を訪ね、その後八丁原地熱発電所に立ち寄るコースです。地形を俯瞰できる地点や、地質や土壌を確認できる「露頭」でストップし、事前に得た知識とイメージを総動員しながら観察を行います。

露頭ではとくに「黒ボク土」と「K-Ah 火山灰」の分布と特徴を確認し、その意味を考えました。大観峰から見渡す雄大な景観や、八丁原地熱発電所における説明と施設内見学を含め、参加者各自がさまざまなことを感じながら理解や発見をし、また疑問を抱いたことが、レポートでもよくわかります。

後半は別府に焦点を絞り、歴史や文化に触れる半日巡検に参加した後、計1日にわたるフィールドワークを各班で実施しました。事前学習で方法論を学び、その後何度か話し合っ、テーマと「行動計画書」を練り上げています。

各班の関心は、別府の自然環境や歴史的背景、観光の現状、また昨今の地熱発電を取り巻く状況など多岐にわたりました。訪問先を厳選して観察を行ったり話を伺ったりする班や、事前に訪問の約束を取る班、質問をあらかじめ送る班、また郷土資料の収集を行う班など、行動の内容も多様です。

事後学習では、得られたデータを整理して、「問い」を立てる作業に取り組みました。

学習を終えて

今回のフィールドスタディでは、事前学習と現場を通して別府阿蘇の自然を「五感」を使って学ぶだけでなく、班ごとに計画を立てて行動する、話をうかがうなど、机の上では体験出来ないことを学びました。また、現地の人々の優しい対応や、班の皆と仲良くなれたことから人とつながる温かさを感じました。とてもよい体験が出来て参加してよかったと思っています。

(1年 鯨井千恵)

このフィールドスタディでは、対象の地を実際に見て歩くことでしか感じ取れない、固有の風土や地形的な特徴などを学ぶことができました。最も印象的なのはグループワークでした。班長を務めるなかで、テーマや行動計画を決めていくプロセスや、話をお聞きする機会など、今後自身の糧となる貴重な経験をすることができました。総括すると、学習はもちろんメンバーと協力して楽しく活動できる、密度の濃いフィールドスタディでした。(2年 佐藤武典)



別府市南畑の露頭にて黒ボク土と K-Ah 火山灰を手にとって観察。大観峰でも観察し、分布と特徴を確かめました。



解散前に全員で。充実感が伝わってきます。